

<福島県での取り組み>

- 福島県とは、障害福祉部門から相馬地区での子どもの預かりに関する基盤の脆弱化を受け、子どもの夏休みの日中支援や放課後支援の取り組みを依頼されている。また、現在、子どものこころの連合大学院（浜松医科大学等）が担っている児童生徒の心のケアのなかでの予防教育において、実際の県内全体での支援を依頼される可能性がある。
- 相馬においては、①避難方法の相談、②アセスメントと個別支援計画の作成、③避難先での療育、④子育ての相談の、以上4つの事業に関しての実施依頼を受けている。JDDNETが受けない場合、実際上は相馬地区での夏休みの子どもの預かり場所がなく、障害児と家族が非常に苦慮する事態が生じることが明確であり、事業を受けることを前提に調整を進めていく。具体的には、i) 相馬地区での障害児の預かり・支援と、ii) 相馬地区での巡回子育て相談の2つを軸とする。i) については現地の支援者が担える体制作りをする。ii) は職能団体の専門家が交代で現地入りし、支援を展開していく。特に、夏季は複数の専門家が外部から入り、支援と関係機関との調整、巡回などを有機的に行っていく。現地での人材確保が当面の課題となる。
- 現時点での準備状況としては、相馬市内で「ゆうゆうくらぶ」を拠点として、職能団体ごとで分担する週を決め、支援を具体化していく体制整備を行っている。
- 教育関連については、すでに4月27日の福島県全体の教育相談担当者を対象とする研修会を子どもの心の連合大学院（浜松医科大学等）が協力して実施し、また5月10日より、相馬高校にて（PTSDの予防教育的な意味も含めた）精神的健康増進の授業（「心の授業」）提供を行っている。全県での希望する小中高校への「心の授業」の提供に際して、可能であれば、研修を行った職能団体の専門家が実際の実施を担えると、発達障害児を含んだ子どもたちの心のケアにおいて、必要な専門家の役割が果たされるものと考えられる。300校程度、1000クラス以上の実施準備が必要とされるため、JDDNETに依頼があった場合には協力を検討することになる。
- 相馬での福祉分野、全県での教育分野ともに、職能団体の多くの専門家の協力が必要であり、のべで数百人の専門家の支援が必要である。予算的には福島県が調整をしてくれており、JDDNETの基金とあわせて実施は可能であると考えられる。
- 福祉分野は7月のスタート予定です。特に、夏休みの始まる17日からの連休明けの週からはスタートをしたいと思います。必要な事業実施に必要な人員の派遣の旅費や必要な物資の準備などにJDDNET基金の活用が予定される。また、第一陣以降、発達障害の子どもを持つ被災家族への必要な物資提供を行い、JDDNET基金が活用された。